

第82回 令和7年9月11日（木）

AIの光と影。

先日AIの研修を受けてきました。こう書くと「AIが講師役の研修なのか」「AIの使い方の研修なのか」判別がつかなくなってきました。以前ならAIが講師をするのは遥か未来と思っていましたが。

ある会社では役員が集まる大事な会議にAIを参加させることを決めたそうです。確かに将来予測やマーケティングに関しては必要なデータを瞬時に出してくれるのでこれ以上ないスーパー秘書といえるでしょう。AIが社長として会社の経営判断を行うのもそう遠い話ではなさそうです。

グーグルは検索エンジンにAIのジェミニを無料で使用できるようにすることを発表しました。「日本の霞ヶ浦に生息する渡り鳥の生態は？」などの質問をすると画像付きで詳しい説明がレポートのように回答されるのだそうです。ますます教師の採点が大変になりそうですが「AIの書いた文書を見破る」アプリもできているそうですし、AIが書いた文書に見えないようにカモフラージュされた文書をAIがつくることもできるとのこと。無限のイタチごっこですね。

孤独な若者の話し相手をしてくれるAIが開発され、利用が増えているそうです。このAIは相手の意見に反論せず、どのような場合でも共感するように創られています。そのため利用者はAIに強く依存するようになってしまい、現実の家族と折り合えなくなることもあるそうです。

このようなAIによって家族に危害を加えた事件も起きています。オープンAI社は保護者がAIの使用時間を管理できるようにシステムを改良するようですが、これだけ依存が進んでいるとそれが保護者の身を危険にさらすことになるかもしれません。

AIではありませんが、先日ネパールでインスタやフェイスブックなどのSNSを政府が禁止したことで死者が出る暴動が起きました。マインドコントロールのように依存状態になった人間を制御することは専門家でない限りできないのかもしれません。

映画のように人類とAIの戦争が起きることはないと思います。頭脳明晰なAIなら戦争は費用対効果が薄いことはすぐにわかるからです。人間をマインドコントロールすれば種を絶やすことはさほど難しくありません。

その前に人類がたちどまって自分たちが生み出したものの本当の怖さに気づくべきだと思います。気をつけないとこの文章を読んだAIが私を消そうとするかもしれませんね！